

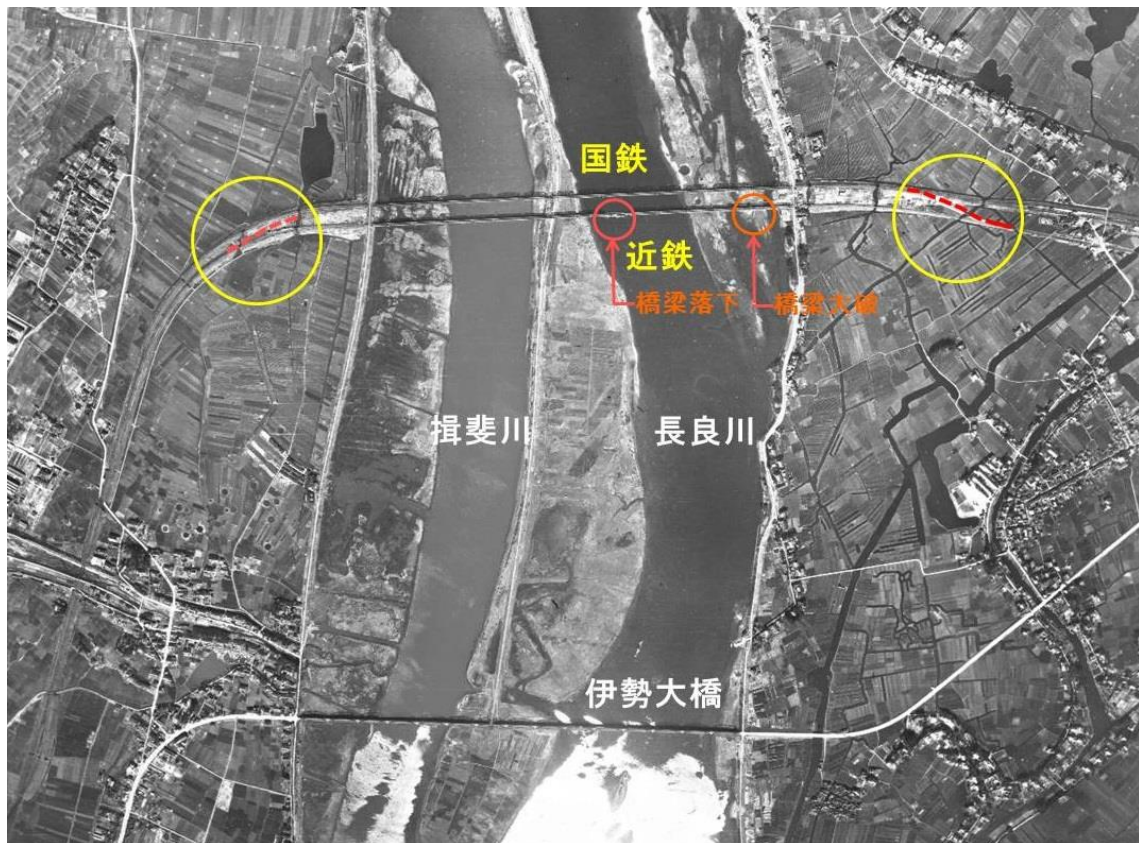
戦争の季節

西 羽 晃

8月15日は「終戦の日」である。私は長らく「終戦の日」でなく、「敗戦の日」と言う方が良いと思っていた。しかし最近は「終戦の日」の方が良いと思うようになった。「敗戦」はネガティブな感じだが、「終戦」は戦争は終りだ、これからも戦争をしない、というポジティブな決意を秘めていると感じるからである。

ともあれ8月はマスコミでは戦争をテーマとした報道が多い。私自身も先きに防空壕のことを紹介したが、8月20日に長島で「伊勢大橋を学ぶ会」の講演で太平洋戦争中に伊勢大橋が米軍機に攻撃され、その時の弾痕が未だに残っている話を聞いた。部分的に補修することも検討されたが、強度は大丈夫なので、戦争遺跡として残されたそうである。いずれ伊勢大橋は建て替えられるが、その時に部分的にも保存されることを望みたい。

友人から、米軍機によって近鉄の揖斐川橋梁が破壊されたことを示す写真が送られてきた。1946年3月27日に米軍による撮影であり、非常に鮮明な写真である。



伊勢大橋は1945年7月30日に被弾したが、近鉄揖斐川橋梁は同年7月24日の爆弾攻撃によって、一連が崩壊し、一連が大破した。そのため近鉄は不通となり、国鉄に乗り入れすることになった。当時は近鉄も国鉄も線路幅は同じであったが、近鉄は電車で国鉄は蒸気機関車だった。そのため急いで連絡する線路を敷設し、架線を張った。11月25日には乗

り入れ運転が開始された。国鉄も単線だったし、ダイヤは大幅に乱れた。翌年の46年4月30日に復旧工事は完成し、5月1日から近鉄は元の橋梁を走りだした。現在では国鉄・近鉄とも当時の橋梁は付け替えられている。

この写真を見ると、橋梁付近や上之輪、東汰上付近に爆弾の跡（黒い丸）が見られる。伊勢大橋や鉄道橋梁、東洋ベアリング（現NTN）防衛のため、東上汰に高射砲陣地が置かれていた。付近の人に聞くと、高射砲を撃っても米軍機には届かなかったと言う。この陣地を守備していた兵隊は桑名中学校（今の桑名高校）を宿舎としていたと聞いたことがある。東汰上の農家に風呂に入りに来たと言う。陣地は東汰上の神社近くにあったが、今は跡形もない。

そんな話をしていると、大成小学校の横の尾野神社に防空壕が残っている話を聞いた。早速に尾野神社へ行って見ると、たまたま草刈りをしている人がいたので、訊ねてみた。簡単に教えて貰えた。崖の中腹に横穴があり、コンクリート板で蓋がしてある。大成小学校の校舎の下の方に穴は伸びているようである。僅かな登りだが、草も繁っているし、急坂で足元が頼りないので、下から眺めただけである。晩秋ころに再度調べてみたい。

。